

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第68号（令和4年10月発行）

令和4年は、7月に第2回定例会が開催され、各議員の一般質問の主な内容は下記のとおりです。

主な質問・答弁要旨

田中智也議員



主な質問項目
・来るべきカーボンニュートラルの時代における四日市港の役割について
・集荷対策について

- 現状、四日市港の輸入貨物の大半を占めている化石燃料の取扱いが、カーボンニュートラルや脱炭素の取組が進展することによって、今後減っていくことが予想される。そんな中で、四日市港の役割についてどのように考えているのか。
- 四日市港の輸入のうち84%が原油、LNG、石炭。化石燃料を水素等に転換していく必要がある。また、原料は変わっても、コンビナートという生産システムは、国民生活に必要不可欠。新しい原料の受入れもしながら、コンビナートを発展させていく。このためには、3月に発足させた四日市市、三重県、企業及び学識経験者による検討会と連携を取りながらしっかりと進めていくことが重要である。
- 四日市港の取扱貨物を増やしていくためには、一定の需要があるものの、他港では取扱いが少ない特殊な貨物を狙っていったらどうか。
- 荷主企業の様々なニーズに対応し、新たな貨物の獲得に努めることは、港勢拡大の観点から大変重要であると考えている。そのため、鮮度保持のため一定の温度に保つ必要がある農林水産物など、特殊な貨物への対応にも取り組んでいる。リーファーコンテナについては、三重県産をはじめとする農林水産物及び食品の輸出促進にも資するよう、令和3年度から荷主企業四日市港利用支援事業補助金の加算要件の対象にリーファーコンテナを加えた。現在整備を進めている四日市港霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業において、四日市港の強みとなるよう、特殊コンテナの対応について関係する港湾関係者と検討をしていきたい。

荻須智之議員



主な質問項目
・物流港である四日市港におけるみなとまちづくりについて
・アマモ場再生における農薬の影響について

- 四日市地区でのみなとまちづくりプランは根本的に見直したほうがよいと感じている。四日市地区への公共交通機関のアクセスの悪さ、車で乗り入れるには駐車場がない、多くの産業車両、大型車両が行き交う場所であるなど、四日市地区に観光客や一般市民を呼び込むには無理がある。今後の四日市港の形態は物流に特化して発展するべきものなのか、観光資源としても開発されるのか。
- 本市の貴重な資産である四日市港に、物流に加え人の流れを呼び込むことで、みなとまちならではの魅力的な都市空間を形成し、賑わいを創出したい。本市の貴重な資産である四日市港に、物流に加え人の流れを呼び込むことで、みなとまちならではの魅力的な都市空間を形成し、賑わいを創出したい。
- 管理組合がこれまで行ってきたアマモ場再生は、海水温の上昇が原因で定着しなかったと聞くが、藻場の再生事業を行うなら海水中に残留する除草剤の影響を調査すべきではないか。また、淡水植物の激減、二枚貝の漁獲の激減は東大教授の論文にもあるようにネオニコチノイド系農薬の影響も懸念される。
- 藻場造成のために新たな水質調査を実施しているところだが、調査項目については、専門家からの助言により、水温、照度、塩分濃度、透明度としている。今後、この調査結果を踏まえながら、藻場の再生に向けて取り組んでいきたい。
- やる気のある学識の専門家と協力して、原因解明に向けて調査を行ってほしい。